



Japanese Red Cross College of Nursing
International Collaboration Center

Annual Report

2023



2023年度 活動報告書
日本赤十字看護大学
国際交流センター

目次

はじめに.....	1
I. 目的と運営.....	3
A. 目的.....	3
B. 運営.....	4
II. 活動内容.....	5
A. 国際交流・国際教育事業の推進及び実施.....	5
B. 大学間交流協定.....	5
1. 大学間交流協定提携校.....	5
2. MOU 更新状況.....	6
3. ラ・ソース大学教員派遣.....	7
C. 外国人研究者等の受入・支援.....	8
1. Varazdin Medical School (クロアチア) 訪問団の受入.....	8
2. スウェーデン赤十字大学 (スウェーデン) の受入.....	8
D. 学生の国際交流.....	10
1. ワシントン大学語学研修.....	10
2. 学生部会の活動.....	15
3. スウェーデン赤十字大学交換留学生の受入.....	17
4. スイス ラ・ソース大学交換留学生の受入.....	18
5. 交換留学生受入共通プログラム.....	19
6. スウェーデン赤十字大学交換学生派遣.....	20
7. スイス ラ・ソース大学交換学生派遣.....	22
8. 交換留学生派遣共通プログラム.....	26
9. 2023 年度交換留学生派遣：選考およびガイダンス.....	26
E. 国際会議・国際シンポジウムの開催.....	27
1. 国際セミナー.....	27
F. その他 国際交流活動及び国際事業・協力活動.....	36
1. TOEFL-ITP.....	36
2. H. E. L. P. in Tokyo 2023.....	37
添付資料	
1. 2023 年度国際交流センター 年間スケジュール.....	39

Contents

Message from Director of International Collaboration Center	1
I . Purposes and Administration	3
A. Purposes	3
B. Administration	4
II . Main Activities	5
A. The Promotion of International Exchange and Education	5
B. Exchange Agreements with Foreign Universities.....	5
1. List of Exchange Agreements with Foreign Universities.....	5
2. MOU.....	6
3. Exchange Faculty to Institut et Haute Ecole de La Santé La Source, Switzerland.....	7
C. Faculty and Staff Support for Researchers from Foreign Countries	8
1. Acceptance of visiting group From Varazdin Medical School, Croatia.....	8
2. Acceptance of Faculty from the Swedish Red Cross University, Sweden.....	8
D. International Exchange Programs for Students	10
1. Intensive English Program at University of Washington, Seattle, U.S.A.	10
2. Activities at International Collaboration Center Students.....	15
3. Exchange Students from the Swedish Red Cross University College	17
4. Exchange Students from Institut et Haute Ecole de La Santé La Source, Switzerland.....	18
5. Common Program of Student Exchange.....	19
6. Exchange Students to the Swedish Red Cross University College	20
7. Exchange Students to Institut et Haute Ecole de La Santé La Source, Switzerland.....	22
8. Student Exchange Joint Meetings.....	26
9. Students Studying Abroad: Selection and Guidance.....	26
E. International Conferences and Symposiums.....	27
1. International Seminar	27
F. Other International Activities, International Programs and Cooperative Activities	36
1. TOEFL-ITP	36
2. H.E.L.P. in Tokyo 2023.....	37
Appendix	
1. Annual Schedule	39

はじめに

国際交流センター長 渋谷 真樹

本学は、赤十字の人道主義や国際性を背景に、人々が豊かで平和に、そして健康に生きる社会の創設に貢献できる人々を育てています。赤十字の理念を体得するために、国際交流は欠かせない柱です。そこで、本国際交流センターは、2015年の設立以来、複数の大学と大学間交流協定を結んで学生や教員の派遣・受け入れを行ったり、国際シンポジウムを開催したりするなど、赤十字社のネットワークを生かしつつ、研究・教育・社会貢献の各領域で、国際交流や国際教育事業の推進をはかってきました。

今年度は、新型コロナウイルス感染状況が一定の落ち着きをみせ、待ち望んでいた対面での国際交流がもどってきました。時系列でこの一年をふりかえってみると、まず、4月早々には、国際ケアリング学会との共催で、ケアリング理論の新しい発展についてセミナーを開催しました。ケアリング理論の第一人者であるジーン・ワトソン先生と本学とが長年築いてきた関係性により、先生のご息女であるジュリー・ワトソン氏をお迎えすることができました。

7月には、クロアチア・ヴァラジン医療学校の先生方をお迎えしました。本学は、多くの大使館が集まる国際的なエリアに立地していますが、クロアチア大使館もごく至近にあります。日本の看護教育について視察にいらした先生方と互いの看護教育をご紹介し合って、議論をすすめることができました。

8月には、パンデミック以降はじめての語学研修を実施することができました。語学研修には、両キャンパスから約30名の応募があり、学生たちが海外での実地体験を待ち望んでいたことがよくわかりました。アメリカ・ワシントン大学へは初の派遣でしたが、授業だけでなくフィールドワークからも学生たちは多くを学んできたようです。

10月にはスイスのラ・ソース大学、11月にはスウェーデン赤十字大学からの交換留学生在が来学し、総合実習や日本赤十字社見学を行いました。受け入れ領域の教員の協力を得て、学生たちの満足感の高い実習を行うことができました。学生部会も、歓送迎会や日本文化の紹介など、積極的に活躍しました。スウェーデン赤十字大学からはおふたりの先生が来学し、スウェーデンの看護教育について講義してくださいました。本学の学生も、留学生と一緒に、積極的に英語で議論することができました。

11月には、国際赤十字・赤新月社連盟(IFRC)のグローバル・ヘルス・ケアのディレクターをお招きし、災害救護研究所と共催で「国際赤十字・赤新月社連盟の保健医療活動」についてご講演

いただきました。紛争地や難民キャンプでの IFRC の保健医療活動について、たくさんの実体験やデータをもとにお話しいただき、本学ならではの充実した会となりました。

2月には、トルコ・ハジェテペ大学のビルゲ・カランラール氏をお招きし、「トルコ・シリア地震と看護」についてセミナーを開催いたしました。これもまた、国際・災害看護学領域に強い本学ならではの企画です。お茶というトルコと日本双方で親しみ愛されている文化を通して歓談したことにより、学部生も震災という複雑で難解なテーマにより一歩近づくことができました。

そして、2月、3月にはついに、両キャンパスから6人の学生がスイスとスウェーデンの協定大学に派遣されました。高校時代からこの留学を目指してきたという学生も複数いましたので、今年度ようやく交換留学を無事遂行できたことに安堵しています。さいたま看護学部からの栄えある第一号派遣生がでましたことも、大きな喜びです。学生たちはみな、不慣れな地で生活し、英語で実習を行うなど、たくさんの挑戦をして、大きく成長して帰ってきました。パンデミック中はオンラインでの交流を続けていましたが、やはり現地での体験、対面でのコミュニケーションは学生に鮮明な印象と深い学びをもたらしたようです。

このように、この1年は生き生きとした国際交流・国際教育が復活した、実り多い日々でした。この報告書でその活動を振り返り、「人道(Humanity)」という赤十字の理念にかなうべく、次の1年へとつなげていきたいと考えています。

I. 目的と運営

A. 目的

国際交流センターは、本学における国際交流事業に広く貢献することを目的として2015年4月に設立された。学生や教員が様々な形で国際交流に参加できるよう、主に次の6つに関する活動を実施している。

1. 国際交流・国際教育事業の推進及び実施
2. 大学間交流協定
3. 外国人研究者等の受入・支援
4. 学生の国際交流
5. 国際会議・国際シンポジウムの開催
6. その他国際交流活動及び国際事業・協力活動など

International Collaboration Center was established in April 2015 in order to contribute widely to international exchange programs in our college. We implement various international activities for our students as well as faculty members to take part in the programs.

1. To promote as well as implement international exchange and education
2. To exchange agreements with universities
3. To accept and support researchers from foreign countries
4. To promote international exchange programs for students
5. To hold international conferences and symposiums
6. To promote other international exchange activities as well as international programs and cooperative activities

B. 運営

国際交流センターは、日本赤十字看護大学国際交流センター規程に定める通り、本学教授を国際交流センター長とし、国際交流センター運営委員会を置いている。委員会は、センター長を含む14名の教員と3名の職員で構成され、上述の国際交流センターの目的1~6及び運営に関して毎月協議・報告を行っている。運営に関わる財源は、国際交流センター運営委員会予算から支出している。

各活動の担当者は次の通りである。

表 1. 国際交流センター運営委員会 各活動担当者一覧表

担 当 役 割	教 員	職 員
国際交流センター長	渋谷 真樹	
国際交流センター運営委員会 副委員長	齋藤 英子 住谷 ゆかり	
研修・語学力の推進 (TOEFL ITPテスト) (会場運営)	遠藤 花子 谷本 美保子 山崎 妙純 服部 弓子 住谷 ゆかり	
MOU	齋藤 英子 野口 眞貴子 渋谷 真樹 安部 陽子	
他国からの教員受入	吉川 悦子 野口 眞貴子 角田 敦彦	
スウェーデン赤十字大学 交換学生受入・派遣 スイス ラ・ソース大学 交換学生受入・派遣	安部 陽子 堀井 湖浪 吉川 悦子 住谷 ゆかり 服部 弓子	
ワシントン大学大学語学研修	遠藤 花子 吉川 悦子 住谷 ゆかり 服部 弓子	高橋 朋子 西岡 理利子 鳥羽 圭子
国際交流センター学生部会	織方 愛 谷本 美保子 山崎 妙純 川端 龍人 服部 弓子 住谷 ゆかり	
大学院生海外研修	野口 眞貴子 安部 陽子 渋谷 真樹	
国際会議・国際シンポジウム	角田 敦彦 齋藤 英子 堀井 湖浪	
H.E.L.P. in Tokyo 2023	野口 眞貴子 角田 敦彦	
年報・報告書	堀井 湖浪 織方 愛 渋谷 真樹	
H P 更新、その他支援	高橋 朋子 西岡 理利子 鳥羽 圭子	

II.活動内容

A. 国際交流・国際教育事業の推進及び実施

国際交流センターは、毎月定例で会議を開催し、国際交流・国際教育事業の推進及び実施をしている。6つの海外大学と「看護教育および研究・開発に関する覚書（MOU）」を締結し、随時更新している。MOUに則って学生や教員の派遣や受け入れをしており、その選考や準備、実施を行っている。MOU締結校以外への学生の海外研修としては、ワシントン大学への語学研修を設けており、両キャンパスの学生が参加している。

MOU提携校以外からも外国人の研究者や実務家・学生等から申し入れがあれば、随時検討の上、受け入れを行い、本学の教育プログラムや施設を紹介している他、本学教員によるレクチャーやディスカッションの場を設定している。

学生の国際交流としては、学生部会を設置し、交換留学生との親睦や学内行事への参加など、学生の国際交流を図っている。

さらに、海外の研究者や実務家を招いて国際シンポジウムを開催し、学内外にグローバルな知的交流の場を提供している。

以下、それぞれについて、本年度の具体的な活動を報告する。

B. 大学間交流協定

1. 大学間交流協定提携校

本学では、以下の海外の大学と「看護教育および研究・開発に関する覚書（MOU）」を締結している。

- ・スウェーデン赤十字大学 (The Swedish Red Cross University, Sweden)
- ・スリサバリンダタイ赤十字看護大学 (Srisavarindhira Thai Red Cross Institute of Nursing, Thailand)
- ・ラ・ソース大学 (La Source, School of Nursing, University of Applied Sciences and Art of Western Switzerland, Switzerland)
- ・カンボジア健康科学大学 (University of Health Sciences, Cambodia) 交渉中

- ・聖アンソニー看護大学 (Saint Anthony College of Nursing, USA)
- ・グランド・バレー州立大学 (Grand Valley State University, USA)

2. MOU 更新状況

2023 年度の MOU 更新をめぐる状況は、以下の通りである。

表 2. MOU 締結交流

2023年度 MOU協定状況

大学名	初回締結 年月日	協定更新 年月日	期間	満了日	申し出期限	備考
1 スウェーデン赤十字大学	2008/5/24	2021/6/9	5 年	2026/6/30	2026/3/30	
2 スリサバリンダタイ赤十字看護大学	2013/12/2	2023/8/29	5 年	2028/8/28	2028/5/27	更新しない場合は、90日前に申し出
3 ラ・ソース大学	2014/5/12	2022/5/27	5 年	2027/5/26	—	1年おきに見直し
4 カンボジア健康科学大学	2016/9/12	交渉中	5 年	—	—	6カ月前までに申し出
5 聖アンソニー看護大学	2018/7/23	2023/7/21	5 年	2028/7/20	2028/1/20	6カ月前までに申し出
6 グランド・バレー州立大学	2018/6/7	2023/5/30	5 年	2028/5/29	2028/1/28	120日前までに申し出

*申し出期限の一年前から検討開始

スリサリバンダタイ赤十字看護大学とは 2022 年度から MOU 更新の準備をすすめ、2023 年 8 月 29 日に更新した。8 月 21 日 15:00-15:30 にオンラインで調印式を行い、本学からは、守田学長、本庄研究科長、渋谷国際交流センター長、国際交流センター運営委員会担当の野口教授、事務局員が出席した。守田学長からは、2012 年にタイ赤十字看護大学を訪問して以来、同大学主催の第 1 回赤十字国際看護学会に参加し、プリンセス・ロイヤル・シリントーン王女に拝謁するなど、交流を深めてきたことが紹介された。その後、動画を用いて両大学の紹介をし、今後も実りある交流を続けていくことを確認した。

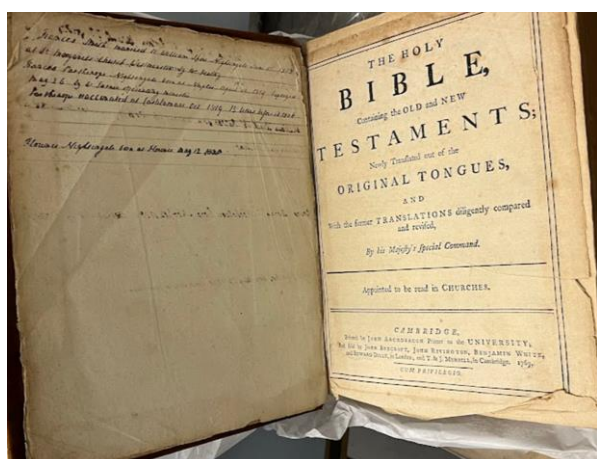


アメリカには2つの協定大学がある。聖アンソニー看護大学とのMOU満了日は2023年7月、グラント・バレー州立大学は2023年6月であり、両大学ともに大学院生を含めて交流ができるように、MOUを更新した。

カンボジア健康科学大学とのMOUは、2021年9月に満了しているが、更新に向けて継続的に交渉を行っている。eメールで事前調整をしたうえで、9月14日に母性領域の教員2名が現地へ赴いて更新のための会議に参加したが、細部で合意できずに持ち帰った。その後も交渉を続け、最終段階に至っている。なお、9月には本学学生が同大学を訪問しており、友好的な関係は維持されている。

3. ラ・ソース大学教員派遣

2024年3月4～8日に、ラ・ソース大学に新田真弓教授と川原由佳里教授を派遣した。両教員は、派遣留学中の本学学生3人の学習状況を確認すると共に、ラ・ソース大学のシミュレーション用教室などの施設を視察した。また、Veronique de Goumoens講師による「家族コミュニケーション」の授業を見学し、ロールプレイによって学生が家族システムアプローチの実際を学ぶようすを視察した。さらに、ラ・ソース・クリニックで「パパにやさしいマタニティユニット」を見学したり、国際赤十字社連盟でアーカイブ調査を行ったりした。



ラ・ソース大学 史料展示コーナーと所蔵品（Nightingaleの聖書）



シミュレーションを取り入れた看護演習

C. 外国人研究者等の受け入れ・支援

1. Varaždin Medical School (クロアチア)訪問団の受け入れ

2023年7月25日、クロアチア大使館からの要請で訪問団を受け入れた。訪問目的は、地方革新的な技術に特化したセンター設立のプロジェクトの一環として、日本の看護教育の現状を視察することである。訪問メンバーは、以下の4名ならびに大使館職員1名、通訳1名であった。本学からは、守田学長、渋谷国際交流センター長、国際交流委員会担当委員2名、事務局2名が対応した。

- ・ Ms, Mirjana Grabar Kruljac, Director of Medical High School Varaždin,
- ・ Ms. Patricija Jakopović, Nursing clinical skills teacher, Medical High School Varaždin,
- ・ Ms . Sonja Veir Labas, Psychologist and teacher, Medical High School Varaždin,
- ・ Mr. Zvonko Pešić, Šibenik, Owner director, Šibenik Private Gymnasium Center of Excellence Sveti Lovre,

本学概要を説明するプレゼンテーションを行った後、看護師養成プログラムに関する質疑応答があった。その後、本学の広尾ホール、救護倉庫、図書館を案内した。

2. スウェーデン赤十字大学 (スウェーデン) の受け入れ

2023年10月30日から10月31日にかけて、スウェーデン赤十字大学の交換学生受入れ期間に

あわせてスウェーデン赤十字大学から2名の教員(Ms. Heléne Eriksson, senior lecturer of programme director of the bachelor programme in nursing; Ms. Jenny Cadstedt, international strategist)が来学した。10月31日にスウェーデンとのハイブリッド会議を行い、交換学生受入れ・派遣に関して意見交換した。ハイブリッド会議参加者は、以下の通りである。

スウェーデン赤十字大学

オンライン出席: Vice chancellor, head of the department of health sciences

対面: Heléne Eriksson, Jenny Cadstedt

本学/対面

守田学長、本庄研究科長、佐々木看護学部長、吉野さいたま看護学部長、

安部教授(本年受入担当領域)、渋谷国際交流センター長

表 3. 他国からの来訪者受入れ一覧(2018年度~2023年度)

年度	月	件数	来訪者	来訪人数	来訪目的
2018	5月	1	5/23 韓国赤十字中央大学 大学院生	21名	大学の施設見学、大学紹介文化交流、大学院学生の研究テーマの意見交換
	9月	2	9/12 ラオス Save the Children 看護師 Helen Catton	1名	国際保健助産学の大学院生向けの特別講演を行うため
			9/19 シリア・アラブ赤新月社代表団	4名	日赤が実施している医療事業、人材育成事業の現場を学ぶため
	10月	1	10/9 スリランカ厚労省	1名	国際保健助産学の大学院向けの特別講演を行うため
2019			他国からの来訪者受入れなし		
2020			他国からの来訪者受入れなし		
2021			他国からの来訪者受入れなし		
2022	3月		3/2 タイ Srinakharinwirot University	9名	国際交流
2023	7月	1	7/25 クロアチア Varaždin Medical School	4名	地方革新的な技術に特化したセンターの設立プロジェクトの一環として、看護大学のカリキュラム、施設等見学のため
	9月	1	9/21 スウェーデン赤十字大学学部生	1名	卒業研究のためのインタビュー調査
	10月	1	10/31 スウェーデン赤十字大学	2名	交換学生プログラムに関する意見交換

D. 学生の国際交流

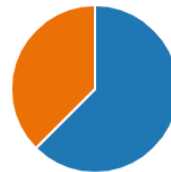
1. ワシントン大学語学研修

2022年度までは新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大の影響により、実施ができなかったが、2023年度は、米国のワシントン大学にて語学研修を行った。看護学部より21名、さいたま看護学部より8名の学生が参加した。希望者が多かったため、ホームステイと学生寮の両方で対応した。

参加学生へのアンケートからは、コロナ禍で海外研修が制約されていたため、待ちかねた渡航であったことがわかる。今回の研修には回答者全員が満足し、希望する学習成果もほぼ達成できたと考えていることがわかった。事前準備の徹底や日本人以外との交流の促進などについては、次年度改善していきたい。アンケート結果の詳細は、以下の通りである。

1. ワシントン大学語学研修全般にどの程度満足していますか？

とても満足	16
満足	10
不満	0
とても不満	0



2. 自分の希望する学習成果を達成したと思いますか？

しっかり達成できた	9
まあまあ達成できた	15
あまり達成できなかった	2
全く達成できなかった	0



3. 渡航期間（長さ）はいかがでしたか？

ちょうどいい	24
長すぎる	0
短すぎる	2



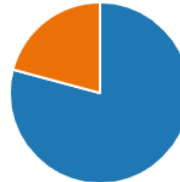
4. 授業はいかがでしたか？

とても充実していた	17
まあまあ充実していた	8
あまり充実していなかった	1
充実していなかった	0



5. 授業の予習・復習は積極的に取り組みましたか？

大いに取り組んだ	20
多少取り組んだ	6
あまり取り組まなかった	0
全く取り組まなかった	0



6. 異文化理解は深まりましたか？

大いに深まった	24
少し深まった	2
あまり深まらなかった	0
全く深まらなかった	0



7. アクティビティに参加しましたか？

はい	26
いいえ	0



8. 8番で「はい」と答えた方に質問です。アクティビティの中で、思い出に残っているのはなんですか？

- ・ Pike Place Market 7名
- ・ HUB ゲーム 2名
- ・ Bainbridge Island 2名
- ・ シアトル水族館
- ・ 船に乗る前に通った道の治安が悪かったこと
- ・ フェリー
- ・ 初回のアクティビティでパイクプレイスマーケットに行って、試行錯誤しながらスタバ

を注文したこと

- ・ 観覧車に乗ったこと。パイクプレイスマーケットでクラムチャウダーを食べたこと。
- ・ 船に乗って Bainbridge Island に行ったこと
- ・ ダウンタウンに行ってたくさんお店に行ったこと
- ・ スターバックス No.1
- ・ ビーチに行ったこと
- ・ ビーチ 水族館 フェリー
- ・ 全て楽しかったです
- ・ 最後のアクティビティ(ボーリングや卓球など)

9. 本学以外の友達はできましたか？

沢山できた	17
少しできた	7
ほとんどできなかった	2
全くできなかった	0



10. どのような理由からワシントン大学語学研修に関心を持ち、参加しようと思いましたか？

- ・ 人生で1度は留学みたいに海外に行きたかったため。
- ・ 入学した際の全体への案内
- ・ 高校での海外の修学旅行がなくなってしまったため、海外に行ってみたかった。また高校では英語を重点的に勉強していて、これが海外で通用するのか実際に行ってみたくかった。スピーキング能力や、積極性を高めたかった。
- ・ 英語を現地で学びたかったから
- ・ 語学留学に興味があった
- ・ 高校の時に留学があったがコロナの影響で中止になってしまったため、今回の機会に留学を経験したいと思ったから。
- ・ 語学力を磨きたいと思ったから。
- ・ 自分の英語力を高めたいと思ったから。現地での生活を体験してみたかったから。
- ・ 説明会で貴重な体験ができそうだったから。
- ・ 高校でコロナのため、海外研修に行けず、大学では海外に行きたいと思っていたから。

- ・ 語学研修にもともと興味があった
- ・ 英語を母国語としない国の研修生が集まって行うプログラムだと聞いていたから
- ・ 元々海外留学に興味があり、単位認定される点から参加しようと思いました。
- ・ 英語の理解を深めたいと思ったから
- ・ 学校で説明を受けいろんな体験ができて楽しそうだと考えたから。
- ・ 将来国際看護師を目指しているため。また語学や海外の文化に興味を持っていたため。
- ・ 以前から英語で会話ができるようになりたいという思いや異文化に興味があったため。
- ・ もともと海外留学に興味があったが、コロナの関係で行けずにいたから。
- ・ 留学をするために入学したため、4年間のうちに1度でも挑戦し語学力を高めたかったから。
- ・ もともと国際看護や英語に興味があったから。
- ・ 外国語や海外の文化を学ぶことに興味があるから
- ・ コロナの影響で海外に行けてなかったから。また、親が勧めてくれたから。

11. 現地に滞在中、1番困難に感じたことは何ですか？

- ・ コロナになり退屈すぎた。
- ・ Wi-Fiがないところが多くて不便だった
- ・ 自分が思っていることを英語で言葉にできなく、他人と比べてしまったこと。
- ・ ホストファミリーとの会話
- ・ ネイティブの人との会話
- ・ ホームステイ先の学校行きのバスの本数が少なく、土日はほとんど遠出して観光することができなかった。
- ・ 寮での食事(調理器具や冷蔵庫がなかったため。)
- ・ 朝と夜が寒くて、暖かい上着を持ってくればよかったと思ったこと。
- ・ 服装
- ・ 授業のレベル、クラスメイトとの英語のレベルの差を感じたこと
- ・ 特になし
- ・ 日本人がほとんどで、自分はドミトリーステイだったので、外国人の友達ができず、クラスも全員日本人で自然と日本語が多くなってしまいう環境にあったこと。また、ドミトリーには電子レンジしかなく、部屋にはWi-Fiが繋がっていなかったことも研修前の情報とは異なり

不便でした。

- ・ 学生寮で自炊ができなかったことです。
- ・ 言語の壁
- ・ 伝えたい事を上手く伝えたらなかったこと。
- ・ ホストファミリーとのコミュニケーション
- ・ 寒暖差 朝とても冷え込んだ
- ・ 特になし
- ・ 私のホームステイ先はアジア系の方で、今までに食べたことがない食事までで、少し大変だった
- ・ 食事に飽きたこと。

12. 良かったことや改善してほしいことなどがありましたら、自由に記載して下さい。

- ・ 他の大学の子と交流でき、日本に帰ってきてからも話す機会があり、とても楽しい思い出になった。
- ・ 事前に寮の情報がもっと欲しかった（冷蔵庫がない、クラスターにシャワーは二つ、部屋にWi-Fiがない、日本人学生と同室、タオル交換は何日に一回なのかなど）
- ・ たくさんのフィールドトリップを設けて下さり、シアトルのことをたくさん知れて、楽しかったです。本当に充実した毎日でした。ありがとうございました。
- ・ 午後のアクティビティで交通機関の使用方法などを確認することができたため、自主行動の時も戸惑わずに使用することができた。
- ・ 日本人だけでなく、他の国の方がもっとたくさんいるプログラムであつたら良かったなと思いました。また、夏休みの期間で厳しい面もあると思いますが、ワシントン大学に実際通う学生と交流できる機会があれば良いなと思いました。
- ・ 日本とアメリカの生活スタイルの違いを実際に経験したり、英語を使って積極的にコミュニケーションをとったりできて良かったです。海外の大学生との関わる機会が少なかつたため、もっと交流できたら良かったなと思いました。
- ・ クラスのレベルが自分に合っているかを滞在期間に聞いて、変更可能にして欲しかった。
- ・ 日本人しかいない環境は改善してほしい
- ・ エージェントや大学からのサポートを受けて留学することができたのは良いことだと思います。改善してほしい点は、学生寮の環境です。冷蔵庫やケトルなどがあると食費を抑えら

れます。またトラベルルーターを強く推奨します。

- ・ アメリカの語学研修に参加したことで、自分の価値観が少し変わった気がする
- ・ コミュニケーション力やネイティブの人の発音が聴き取りやすくなった。英語力だけでなく、慣れない場所での生活力など様々な力がつき、沢山の日本ではできない経験をした。
- ・ 事前に寮に電子レンジがないことやキッチンあるなしが知りたかった
- ・ 渡航前のホームステイ先の発表や手続きの連絡をもう少し早くしてほしかった。
- ・ アメリカには行ったことがなかったので、とても良い経験となりました。またこのような機会があったら、ぜひ参加してみたいと思います。

2. 学生部会の活動

国際交流センター運営委員会では、交換留学生や海外からの訪問者と本学学生が交流を図る目的で、2015年度に国際交流センター学生部会を立ち上げた。2023年度は9年目となり、学生主体で積極的に企画・実施を行っている。2023年度の部会登録者数は、学部生と大学院生とで計70名ののぼり、年間を通して15回の活動を行うなどして、学部2年生を中心に運営された。ほとんどの打合せはオンラインで実施し、交流企画は対面で実施した。主な活動内容は、広尾、大宮両キャンパスにおける大学祭への出展、留学生との交流会であった。

表4 2023年度 国際交流センター運営委員会 学生部会企画

回	日程	時間	内容	キャンパス	場所	来場者数
1	10/16 (月)	12:10-12:50	スイス人留学生歓迎会	広尾	210	17
2	10/21 (土)	10:00-16:00	クロア・ルージュ祭	広尾	食堂	12+来場者
3	10/27 (金)	18:00-	スイス人留学生茶道体験会	広尾	210	11
4	10/30 (月)	12:10-12:50	スウェーデン人留学生歓迎会	広尾	301	18
5	10/30	11:45-12:45	スイス人留学	大宮	SALA	15

	(月)		生ランチ会			
6	11/2 (木)	18:00-19:00	スウェーデン 人留学生茶道 体験会	広尾	210	17
7	11/2 (木)	18:00-19:00	スイス人留學 生送別会	大宮	図書館前 ラウンジ	11
8	11/7 (火)	11:45-12:45	スウェーデン 人留学生ラン チ会	大宮	SALA	23
9	11/10 (金)	17:00-18:00	スウェーデン 人留学生送別 会	大宮	図書館前 ラウンジ	20
	9回					144+ α

2023年10月には、2019年10月以来、久しぶりの対面での交流が実現し、学生部会の活動も対面での交流に戻り、学生同士が積極的に交流を楽しむ様子が見られた。次年度へ向けても、オンラインと対面の良い部分を生かしながら国際交流推進に取り組みたいとの意見が出された。



↑留学生に茶道をレクチャーする部会学生



↑学園祭に出展し各国の飲物をふるまう部会学生

3. スウェーデン赤十字大学交換留学生の受入

スウェーデン赤十字大学との MOU は 2008 年 5 月に締結され、同年 11 月より交換学生の受入れを開始した。本年は 10 月 30 日から 11 月 10 日の 2 週間の日程で Ms. Fanny Östergård、Ms. Emmy Holmström、Ms. Karolina Mitchell の 3 名の交換留学生を受け入れた。

受け入れにあたっては、広尾キャンパスでは看護管理学領域の安部教授および基礎看護学領域の吉田教授、さいたまキャンパスでは基礎・成人看護学領域の岡田教授が主担当となった。受け入れ内容の詳細は、以下のとおりである。

表 5 2023 年度 スウェーデン赤十字大学交換留学生の受入日程

	日	曜日	時間	内容	場所	担当教員	宿泊先	
1週目(広尾)	10/28	土					東急ステイ目黒祐天寺	
	10/29	日		大学周辺案内	祐天寺～大学	学生会(4名)		
	10/30	月	10:00	オリエンテーション	503教室	国際交流		
			12:10-12:50	学生会主催 歓迎会(ランチ会)		学生会		
			12:40-13:40			学生会		
	10/31	火	9:30～12:00	医療センター全体の紹介 ツアー	医療センター	広尾担当領域		
			12:00-13:00	ランチ				
			13:00-16:00	自己学習				
	11/1	水	10:00-12:00	本社見学	日本赤十字社 本社(篠崎様)	引率:鳥羽		
			13:00-16:00	自己学習				
	11/2	木	9:30-12:00	婦人科を訪問、精神看護学認定看護師による講義	医療センター	広尾(通訳:岡井先生)		
			12:00-13:00	ランチ				
			13:00-16:00	自己学習				
			16:00-	国際交流部企画 茶道体験会	学内	学生会		
11/3	金	文化の日						
11/4	土							
11/5	日							
2週目(広尾+さいたま)	11/6	月	9:00-12:00	救急部門見学	医療センター	広尾担当領域	深谷グランドホテル 11/7～11/9 2泊3日	
			12:00-13:00	ランチ				
			13:00-16:00	カンファレンス	207教室			
	11/7	火	9:00-11:45	ホテルからさいたまへ移動		引率:さいたま教職員		深谷グランドホテル 11/7～11/9 2泊3日
			11:45-12:45	大宮キャンパスで昼食(ランチ会)		学生会		
			13:00-13:30	大宮キャンパスオリエンテーション	大宮キャンパスSALA	吉野学部長・西岡		
			13:30-15:00	基礎・成人看護学領域実習オリエンテーション		岡田		
	11/8	水	9:00-12:00	施設で実習:緩和病棟・産婦人科病棟	深谷赤十字病院	岡田 ◆通訳(東田)		深谷グランドホテル 11/7～11/9 2泊3日
			昼食	施設で昼食				
			13:00-16:00	施設で実習:内科系病棟・外科系病棟				
	11/9	木	9:00-12:00	施設で実習:集中治療室・手術室	深谷赤十字病院	岡田 ◆通訳(東田)		ホテルプリランテ武蔵野 11/9～11/11 2泊3日
			昼食	施設で昼食				
13:00-16:00			施設で実習:救急病棟					
11/10	金	10:00-12:00	自己学習	大宮キャンパスSALA	岡田・奥原	ホテルプリランテ武蔵野 11/9～11/11 2泊3日		
		12:10-12:50	学習体験発表会(ハイブリッド)					
		13:00-14:00	昼食					
		14:00-15:30	評価面談(ハイブリッド)					
		17:00-18:00	送別会					
11/11	土			図書館前ラウンジ	学生会			
11/12	日							

4. スイス ラ・ソース大学交換留学生の受入

ラ・ソース大学とのMOUは2014年5月に締結され、2015年10月より交換学生の受入れを開始した。3名の交換留学生の受入れを計画していたが、本年は10月16日から11月2日の3週間の日程でMs. Lieberherr NoémieとMr. Jatou Yohanの2名の交換留学生を受け入れた。

受け入れにあたっては、広尾キャンパスでは地域・在宅看護学領域の西田講師および精神保健看護学領域の堀井准教授、さいたまキャンパスでは基礎・成人看護学領域の岡田教授が主担当となった。受け入れ内容の詳細は、以下のとおりである。

表6 2023年度 スイス ラ・ソース大学交換留学生の受入日程

	日	曜日	時間	内容	場所	担当教員	宿泊先
	10/14	土					東急ステイ目黒祐天寺
	10/15	日		大学周辺案内	祐天寺～大学ほか	学生会(4名)	
1週目(案)	10/16	月	10:00	オリエンテーション	205教室	国際交流センター・受入れ領域教員	
			12:00-12:50	学生会主催 歓迎会		学生会	
			13:00-14:00	地域看護学領域 オリエンテーション	205教室	地域看護学領域(西田)	
			14:00-16:00	フィールドオリエンテーション	広尾訪問看護ステーション	★通訳(13:00-15:00)	
	10/17	火	8:30-12:00	訪問看護ステーションでの実習	広尾訪問看護ステーション	地域看護学領域(西田)	
			昼食	フィールドに応じて昼食	学内		
	10/18	水	13:00-16:30	訪問看護ステーションでの実習	広尾訪問看護ステーション	地域看護学領域(西田)	
			8:30-12:00	訪問看護ステーションでの実習	広尾訪問看護ステーション	地域看護学領域(西田)	
	10/19	木	9:00-11:00	フィールドに応じて昼食	学内		
			13:00-16:30	訪問看護ステーションでの実習	広尾訪問看護ステーション	地域看護学領域(西田)	
			9:00-11:00	LE在宅・施設 訪問看護リハビリテーション見学	LE.O.VE株式会社	地域看護学領域(西田) ★通訳	
			11:00-13:00	屋食・移動			
10/20	金	13:00-15:00	ケアプロ在宅医療株式会社見学	ケアプロ在宅医療株式会社	地域看護学領域(西田) ★通訳		
		15:00-16:00	自己学習	学内(ゼミ室)			
		9:00-12:00	医療センター(患者支援センター)での実習	医療センター	地域看護学領域(西田)		
		13:00-14:00	フィールドに応じて昼食	学内			
10/20	金	14:00-16:00	カンファレンス準備および自己学習	学内(ゼミ室)	地域看護学領域(西田)		
		14:00-16:00	カンファレンス	学内もしくは広尾訪問看護ス	地域看護学領域(西田) ★通訳		
10/21	土						
10/22	日						
2週目	10/23	月	10:00-11:30	精神領域オリエンテーション	学内(多目的演習室?)	廣野・堀井 ★通訳(約2時間)	
			11:30-12:30	屋食			
			12:30	集合場所:守衛室前			
			13:30-	本社見学	日本赤十字社 本社(篠崎様)	引率:高橋	
	10/24	火	午前	各施設で実習	あとりえふあんども(9:00~)	堀井 ★通訳(なし)	
			午後	各施設で実習	ストライドクラブ(9:30~)		
	10/25	水	午前	フィールドオリエンテーション	あとりえふあんども(9:00~)	堀井 ★通訳(13:00-16:00)	
			午後	各施設で実習	ストライドクラブ(9:30~)		
	10/26	木	午前	自己学習		堀井 ★通訳(13:30-16:30)	
			午後	各自	井之頭病院(13:30~16:30)		
	10/27	金	午前	カンファレンスの準備、自己学習		廣野 堀井 ★通訳(2時間)	
			午後	各自			
10/27	金	13:30-15:30	カンファレンス	学内(多目的演習室?)	廣野 堀井 ★通訳(2時間)		
10/28	土		放課後	国際交流センター学生会交流企画 書道体験会	学内	学生会	
10/29	日						
3週目(さいたま)	10/30	月	9:30-11:40	ホテルからさいたまへ移動	ホテルに荷物を置く	引率:高橋/学生会221B006 浅野楓/西岡	ホテルプリランテ武蔵野 Ms. Lieberherr Noémie: 10/30~11/4 5泊6日 Mr. Jatou Yohan: 10/30~11/3 4泊5日
			11:45-12:45	大宮キャンパスで屋食(ランチ会)		学生会	
			13:00-13:30	大宮キャンパスオリエンテーション	大宮キャンパス(SALA)	吉野学部長・事務	
			13:30-15:00	基礎・成人看護学領域実習オリエンテーション		岡田	
	10/31	火	9:00-12:00	施設で実習		引率:岡田	
			昼食	施設で昼食	さいたま赤十字病院	岡田	
			13:00-16:00	施設で実習			
			9:00-12:00	施設で実習	さいたま赤十字病院	岡田	
	11/1	水	昼食	施設で昼食			
			13:00-16:00	施設で実習			
			9:00-12:00	施設で実習			
			13:00-16:00	施設で実習			
11/2	木	10:00-12:00	カンファレンス		岡田		
		12:10-12:50	学習体験発表会(ハイブリッド)	大宮キャンパス(SALA)	岡田・奥原		
		13:00-14:00	屋食		岡田・奥原		
		14:00-15:30	評価面談(ハイブリッド)		岡田・奥原		
18:00-19:00	送別会	図書館前ラウンジ	学生会				
11/3	金(祝日)		自己学習?				
11/4	土						
11/5	日						

5. 交換留学生受入共通プログラム

ラ・ソース大学およびスウェーデン赤十字大学からの交換留学生の受け入れにあたり、それぞれ初日にはオリエンテーションを開催した。

また、期間中に日本赤十字社本社を見学した。ラ・ソース大学交換留学生 2 名は 10 月 23 日（月）、スウェーデン赤十字大学の交換留学生 3 名は 11 月 1 日（水）に行った。

さらに、国際交流センター運営委員会学生部会が主催して歓迎会やさまざまな交流会、送迎会を行った。今回、さいたまキャンパスでは初の受け入れであったが、さいたまの学生も積極的に活動に参加した。これらの活動を通じて、交換留学生と両キャンパスの学生が親睦を深めた。



6. スウェーデン赤十字大学交換留学生派遣

スウェーデン赤十字大学の交換留学生派遣は、2024年2月19日（月）～3月22日（金）の5週間であった。看護学部からは沢田桃子さん、大和葉子さん、さいたま看護学部からは長島綾香さんが、交換学生として選抜された。クリニックやホームケアリングなどで実習を行った。

表7 2023年度 スウェーデン赤十字大学交換留学生の派遣日程

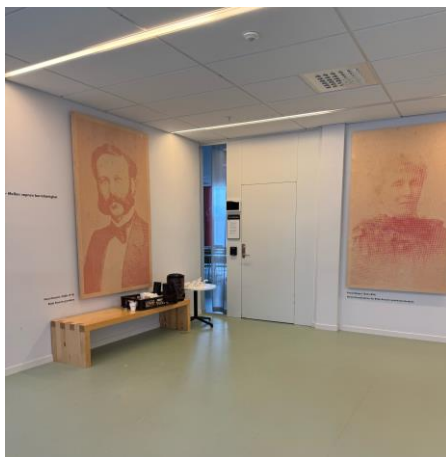
Måndag 26/2	Tisdag 27/2	Onsdag 28/2	Torsdag 29/2	Fredag 1/3
Introduktion	Hemsjukvården	Hemsjukvården	Hemsjukvården	Ledig
Måndag 4/3	Tisdag 5/3	Onsdag 6/3	Torsdag 7/3	Fredag 8/3
Hemsjukvården	Diabetes Mottagning	Diabetes Mottagning	Hjärt/Kärl Mottagning	Ledig
Måndag 11/3	Tisdag 12/3	Onsdag 13/3	Torsdag 14/3	Fredag 15/3
SSK Mottagning	SSK Mottagning	SSK Mottagning	SSK Mottagning	Ledig
Måndag 18/3	Tisdag 19/3	Onsdag 20/3	Torsdag 21/3	Fredag 22/3
SSK Mottagning	SSK Mottagning	SSK mottagning	SSK mottagning Slutbedömning	Ledig

帰国報告会では、現地での実体験による学びが生き生きと語られ、困難に遭遇しながらも挑戦し、それを乗り越えたことが自信となったようすが確認できた。たとえば、日本とスウェーデンの医療の相違として、①コミュン（市町村）とランスティング（都道府県）による運営、②医療費負担、③デジタルヘルスサービス、④Vardcentral（各コミュンに設置された医療福祉センター）、⑤看護師ができることが挙げられた。そのうえで、スウェーデンのメリットとして、効率的な医療の提供、医療職者の労働環境のよさ、医療費削減が挙げられた。一方、デメリットとして、

電話で患者の状態を把握することの限界、誰でもすぐに診察してもらえるわけではないことが挙げられた。学生たちは、vardcentral では看護師が自分の診察部屋を持ち、基本的に一人で診察、検査、治療を行っていることを目の当たりにして、高い医療的知識と技術が求められ、医療の中で大きな役割と責任を担っていることに感銘を受けていた。移民の多い地域での実習で、英語がほぼ通じない環境への驚きも語られた。

学生の事後アンケートからは、以下のような感想が寄せられた。

- ・ スウェーデンの看護について知れる貴重な機会になったのはもちろん、患者にとって看護師はどのような存在なのか、スウェーデンの看護学生はどのように看護技術を学ぶのかなど日本とは違う形の看護を目の前で学べたのが良い経験になりました
- ・ 私の実習先はスタッフも患者も英語を話せる人が少なかったため、翻訳機能やジェスチャーを使いながらコミュニケーションをとりました。英語を使うことを意気込んで望んだため、少し困難に感じたところではありました。



7. スイス ラ・ソース大学交換留学生派遣

ラ・ソース大学への交換留学生派遣は、2024年2月26日（月）～3月15日（金）の3週間であった。残念ながらさいたま看護学部からは応募がなく、看護学部から浅野楓さん、板垣恩実さん、山田ほのかさんが交換学生として選抜された。病院実習を行ったり、国連本部やICRCなどを見学したりした。詳細は表8のとおりである。

帰国報告会では、ラ・ソース大学は1859年に設立された世界初の一般看護学校であり、高度なシミュレーションセンターを有していることが紹介された。看護師役の学生の言動を遠隔から観察しアドバイスをしたり、事後に学生同士で議論を実施したりする授業についても紹介された。

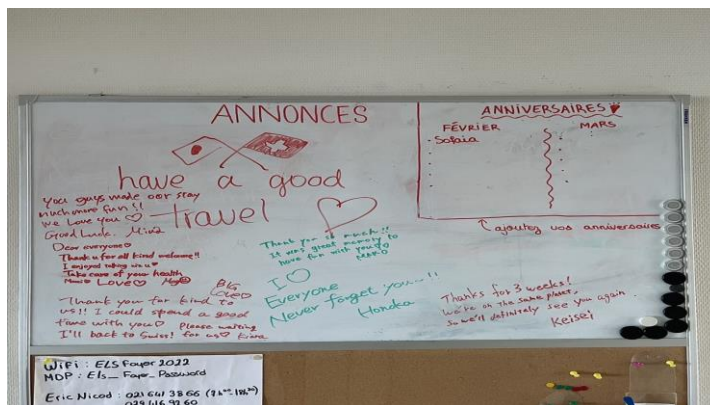


表 8 2023 年度 ラ・ソース大学交換留学生の派遣日程

Global Health Nursing Exchange Program, Lausanne, Switzerland February 26 th to March 15 th , 2024					
Date	Time	Place	Program	Faculty	Special Comments
Sat, Feb .24 th		Geneva	Arrival in Geneva airport: AY1532 – 10.05 (Kaede, Megumi, Honoka, Kiara and Mako) EK089 – 12.45 (Keisei)	Noémie Lieberherr, Andrea Moesching (2023 outbound students)	They will welcome and accompany the students to reach the dorms by train and bus.
		Lausanne	Welcome at the Students' Residence	Prof. Christophe Boraley Prof. Corinne Borloz, Dean, Ms Nadia Righetti,	
Sun, Feb. 25 th	13.00- 16.00	Lausanne	Discovering Lausanne (visit, orientation) www.lausanne-tourisme.ch/en	Yohan Jaton (2023 outbound student)	Pick up at Students Residence La Source
		Geneva	Arrival in Geneva airport: EK089 – 12.45 (Mina)	Jérémie Jacquet (2023 outbound student)	Transfer by train and bus to Lausanne.
Mon, Feb. 26 th	09:00- 11:00	La Source, Vinet, Fréminet B	Welcome to Switzerland & Guided tour discovering La Source	Prof. Corinne Borloz, Dean, Prof. Christophe Boraley, Prof. Debora Martinez, Ms Nadia Righetti	Meet at La Source reception, Vinet Lunch Vinet
	11:00- 11:45		Site Security Information	Corinne Moureau Operations Manager /Fire protection safety officer	
	13:00- 13:30	La Source, Vinet, Office 1	Greetings and group picture, Mr Stéphane Cosandey, Director	Corinne Borloz, Dean, Christophe Boraley, Natacha Blondel	
	13:00- 16:00	La Source, Beaulieu, classroom 7	Simulated Hospital, Beaulieu & explanations about practical training	Prof. Christophe Boraley, Simulation team	
	16:15- 17:45		Presentation of the SU objectives and program, discussion time	Prof. Christophe Boraley, Prof. Debora Martinez	
	19:00- 21:00	La Source, Beaulieu	Informal gathering (optional)	Prof. Christophe Boraley, Prof. Debora Martinez, 2023 outbound student	
Tue, Feb. 27 th	8:30- 10:00	La Source, Beaulieu, laboratoire clinique	Simulation: clinical skills, bladder catheterisation OR Simulation: clinical assessment of mental health	Prof. Ricardo Salgado Prof. Pierre Lequin, Prof. Nathalie Conod	Possibility to assist to one of the class, morning or afternoon.
	10:30- 12:00				
	13:00- 14:30	La Source, Beaulieu, classroom 7	Conference: assistance suicide in Switzerland	Prof. Sofia Aguet	
	15:00- 16:00		Preparation for practical training (field day)	Prof. Christophe Boraley, Prof. Debora Martinez	
17:30- 20:00	La Source, Beaulieu, auditorium Gailloud- Lusso	Personal presentation about school and region & informal gathering	Prof. Corinne Borloz, Dean Prof. Christophe Boraley, Prof. Debora Martinez, Ms Nadia Righetti, 2023 outbound students, student association (ADES)		

Wed., Feb. 28th	08:30 11:30		TBC		
	13:00 16:00	La Source, Beaulieu,	Conference: mental health in Switzerland	Prof. Debora Martinez	
Thur., March 29th	06:00 17 :00	Lausanne region	Practical training	Paired with La Source students	Clinical uniform & badge required. Lunch on site
Fri., March 1st	08:30 11.30	Lausanne	Hirslanden clinic visit	Prof. Christophe Boraley	
	13:00 15:30	La Source, Beaulieu,	Discussion time about the visit	Prof. Christophe Boraley and clinical partners	
Sat., March 2nd & Sun., March 3rd	Free weekend				
Mon., March 4th	08:30- 09:30	La Source, Beaulieu, classroom 7	Discussion time about SU objectives and program	Prof. Christophe Boraley, Prof. Debora Martinez,	
	09:30- 10:00	La Source, Beaulieu, reception	Welcome JRCCN faculty, Ms Inoue & Ms Mayumi	Prof. Christophe Boraley, Prof. Debora Martinez Ms Nadia Righetti	
	10:00- 11:30 13:00- 14:30	La Source, Beaulieu, Laboratoire clinique	Simulation : family communication workshop	Prof. Véronique de Goumoëns Ms Inoue & Ms Mayumi	
Tue., March 5th	08:00 18:00	Geneva	Visit United Nations & Int. Red Cross Museum: www.redcrossmuseum.ch/en www.un.org/ Which links with today's nursing?	Prof. Christophe Boraley, Prof. Debora Martinez, Ms Inoue & Ms Mayumi	Lunch at ICRC Restaurant
Wed., March 06th	09:00- 11:00	La Source, Vinet, classroom 102	Conference: Swiss health and political system	Prof. Cédric Bussy Ms Inoue & Ms Mayumi	
	Time TBC	Clinic La Source, Lausanne	Visit Clinic La Source - maternity ward	Prof. Christophe Boraley, Ms Inoue & Ms Mayumi	
Thur., March 7th	08:30- 11:30	Lausanne	Visit of hospital services to be confirmed	Prof. Christophe Boraley	
	13:30- 16:30	Lausanne	Discussion time about the visit	Prof. Christophe Boraley, clinical partners	
Fri., March 8th	08:30- 11.30		TBC		
	13:00- 15:30	Lausanne	Discussion and wrap up session	Prof. Christophe Boraley, Prof. Debora Martinez	

Sat., March 9th & Sun., March 10th	Free weekend				
Mon., March 11th	08:30- 11:30	Lausanne	Suggested activities: Health and society museum: Musée de la main UNIL-CHUV Art brut collection: Collection de l'Art Brut	Prof. Christophe Boraley, Prof. Debora Martinez Prof. Laetitia Qalla Widmer	
	13:30- 16:30	Lausanne			
Tue., March 12th	06:00- 17:00	Lausanne region	Practical training	Paired with La Source students	Clinical uniform & badge required. Lunch on site
Wed., March 13th	08:00- 17:00		Daytrip at Rochers de Naye	Prof. Christophe Boraley, Prof. Debora Martinez, Faculty members and La Source students	ロッシェ・ド・ネ ー スイス政府観光局 (mvs.witzerland.com)
Thur., March 14th	08:30- 16:30	La Source, Beaulieu	Discussion time and final presentation preparation TBC	Prof. Christophe Boraley, Prof. Debora Martinez	
Fri., March 15th	08:00- 10:00	La Source, Vinet, classroom 203	Final Presentation, discussion and wrap up session	Prof. Corinne Borloz, Dean Prof. Christophe Boraley, Prof. Debora Martinez, Ms. Nadia Righetti, 2023 outbound student, student association (ADES) members, Professors, students, clinical partners	
	10:00- 11:00	La Source, Vinet, classroom 203	Receiving certificate	Stéphane Cosandey, Director Prof. Corinne Borloz, Dean Prof. Christophe Boraley, Prof. Debora Martinez, Ms. Nadia Righetti, Professors, students, clinical partners	

8. 交換留学生派遣共通プログラム

看護学部、さいたま看護学部の各ガイダンス期間に、学生部会の協力も得て、国際交流に関する説明会をハイブリッドで開催した。内容としては、語学研修プログラムの準備状況、スウェーデン赤十字大学およびラ・ソース大学との交換留学再開に向けた準備状況を説明し、学生部会やTOEFL ITP の紹介を行った。

9. 2023年度交換留学生派遣：選考およびガイダンス

交換留学応募者数は6名であり、選考試験（英語筆記試験、面接）を行い、スウェーデン赤十字大学およびラ・ソース大学への交換留学生を各3名選抜した。12月25日に事前オリエンテーションをオンラインで行った。事務手続き連絡の他、外務省推奨のたびレジ登録や緊急連絡先の伝達など、安全管理に関する周知を行った。

E. 国際会議・国際シンポジウムの開催

1. 国際セミナー

2023 年度は 4 つの国際セミナーが開催された。

1) New Development of Watson's Caring Theory

2023 年 4 月 17 日 (月)、2023 年度 国際ケアリング学会・日本赤十字看護大学共催セミナー「New Development of Watson's Caring Theory」をオンライン (Zoom) にて開催した。演者は、Watson ケアリングサイエンス Institute(WCSI)の Executive Director である Julie Watson 氏と、WCSI Latino-Iberoamérica Director の Héctor Rosso 氏であった。Julie Watson 氏は、世界各国で注目されているケアリング・サイエンス理論提唱者の Jean Watson 先生のご息女であり、Jean Watson 先生と理論に関する本を執筆している。最近の理論の動向や各国におけるケアリング理論の展開の紹介とともに、日本における今後の展開への示唆をいただいた。ZOOM での 110 名の参加を含め、国際ケアリング学会員および本学教員が多数参加した。

開催にあたっては、国際ケアリング学会理事長の安酸史子氏、副理事長のグレッグ美鈴氏、本学名誉教授の筒井真優美氏、通訳をつとめてくださった川野雅資氏、および、同学会理事であり本学教授の江本リナ教授にご尽力いただいた。記して感謝します。

国際ケアリング学会・日本赤十字看護大学 共催セミナー

New Development of Watson's Caring Theory

Watson Caring Science Institute

来日公演 世界各国で注目されるジーン・ワトソン氏の「ケアリング理論」についてお話しいただき、日本における今後の新しい発展を、参加者と一緒に考えます。

Julie Watson WCSI Executive Director
ジーン・ワトソン氏の嫡であり、世界中の看護師や医療のコンサルティングも行っており、「ケアリング理論」の看護実践への応用に尽力されています。

Héctor Rosso WCSI Latino-Spanish Director
小児病院での長年の看護実践をもとに、ラテンアメリカを中心に「ケアリング理論」の導入活動も率いるジェロー・ワトソン氏と行っています。

- 日時 2023年4月17日（月） 13:00～15:00
- 対象 国際ケアリング学会会員
日本赤十字看護大学教職員・学生
- オンライン開催 ● 通訳あり
- 参加費 無料

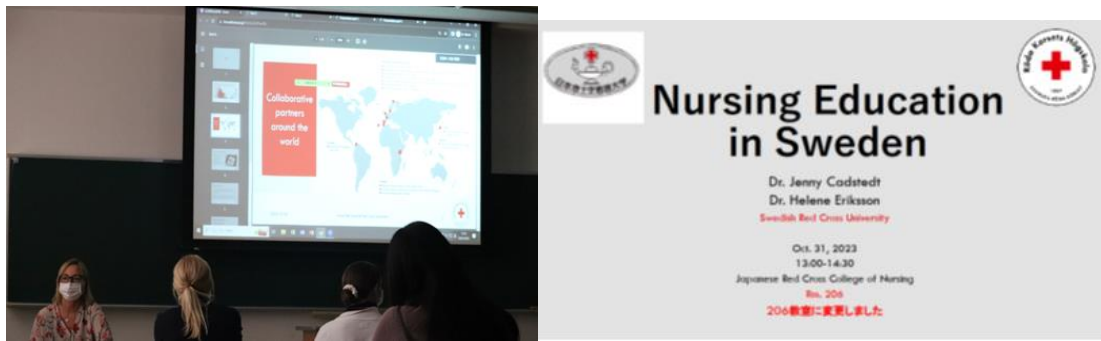
本学教職員・学生の事前申込は不要です。
以下ウェビナーURLよりお入りください。
<https://zoom.us/j/86163129854?pwd=LTkxN0hVZjMudjRlTGZlMkZlZjY1bGpScz09>
ウェビナーID：861 6312 9854
パスコード：084025

◆お問い合わせ◆ 国際交流センター担当 kokusai@redcross.ac.jp



2) Nursing Education in Sweden

2023年10月31日（月）に、「Nursing Education in Sweden スウェーデンにおける看護学」を対面およびオンラインで 206 教室にて開催した。スウェーデン赤十字大学の Jenny Cadstedt 先生と Helen Eriksson 先生を迎え、スウェーデンの社会やスウェーデンにおける看護教育についてご講演いただいた。本企画は、渋谷国際交流センター長が担当する「現代教育論」の一部として履修生を主な対象としつつ、本学の学生や教職員にも公開して行った。スウェーデンからの交換留学生も参加して、日本とスウェーデンにおける看護教育について英語で活発に意見交換がされた。



3) 国際赤十字・赤新月社連盟の保健医療活動

2023年11月30日に災害救護研究所と国際交流センターの共催で、国際赤十字・赤新月社連盟（IFRC）のグローバル・ヘルス・ケア部門のディレクターであるペトラ・コウリー博士による講演会「国際赤十字赤新月社の保健医療活動」を開催した。コウリー氏は、感染症を専門とする薬学博士であり、Covid19対策に関して国家をリードする役目を担っている。講演会では、IFRCが自然災害や人道危機に際して行う保健医療活動や、近年取り組んでいる環境問題などをお話していただいた。開催にあたっては、本学内木美恵教授のご尽力をいただいた。記して感謝いたします。





4) トルコの紹介 2023年トルコ・シリア地震と看護

2024年2月14日に、トルコ共和国立 Hacettepe 大学公衆衛生看護学領域准教授であるビルゲ・カランラル氏による国際セミナー「トルコの紹介 2023年トルコ・シリア地震と看護」を主催した。これは、本学の織方愛准教授による日本学術振興会 2023年度外国人招へい事業・短期S（フェローシップ ID S23082）の助成を受けて実現したものである。カランラル氏は2週間の多忙な日本滞在期間中に、本学学部生のために時間を割いてくださった。

当日は、対面31名、オンライン16名の計47名が参加した。能登半島地震被害者への哀悼から始まり、親しみやすくトルコの紹介をしていただいた。そのうえで、2023年トルコ・シリア地震の経験やトルコの防災や災害対応などを、幅広く話ししていただいた。トルコのおいしいお茶をふるまい、参加者全員に手製の魔除けを配ってくださるなど、心あたたまるセミナーであり、地震国家同士の連帯を強め、災害看護への関心を高めるよい機会となった。

アンケートでは、全員がセミナーの内容に満足し、役立ったと回答していた。「講演者の気持ちの伝わる温かいご報告でした」「Bilge 先生のお心遣いに胸が熱くなりました」など、高い評価を得た。

- ①日 時：2024年2月14日（水）17：00～18：10
 ②場 所：日本赤十字看護大学 206 教室（対面） *Zoom 同時配信
 ③講 師：Dr. Bilge Kalanlar（ビルゲ・カランラール）先生
 ④テーマ：トルコの紹介、2023年トルコ・シリア地震と看護

第一部：トルコの文化の紹介
 休憩：トルコ茶と茶菓子の試食
 第二部：トルコ・シリア地震の報告

- ⑤参加者：47名（対面31名+オンライン16名）

	学部生	大学院生	教員	職員	計
対面	10	2	14	5	31
オンライン	5	7	3	1	16
合計	15	9	17	6	47

- ⑥進行

時間	進行内容	担当者
12：00	オンラインリハーサル	藤村, 齋藤, 織方, Kalanlar
17：00	司会進行	吉川
17：01	開始の挨拶	守田
17：04	講師紹介	織方
17：05	講演, トルコ茶ティータイム	Kalanlar
17：55	Q&A, 意見交換	吉川
17：55	閉会の挨拶	渋谷
	アンケート依頼	吉川
18：10	写真撮影, 終了	遠藤



講演後の集合写真

日本赤十字看護大学 国際交流センター主催 国際セミナー
トルコの紹介
2023年トルコ・シリア地震と看護
 日時 2月14日（水）17:00-18:00
 場所 広尾キャンパス 206教室（対面）
 講師 Bilge Kalanlar（ビルゲ・カランラール）先生
 トルコ共和国 Hacettepe 大学 災害看護学専攻 准教授
 言語 英語（逐次通訳付き）
 トルコ共和国から災害看護学の研究者が日本赤十字看護大学に2週間の予定で来日します。
 トルコとはどんな国なのか、2023年トルコ・シリア地震の経験やトルコの防災や災害対応など幅広くお話しします。
 ビルゲ・カランラール先生プロフィール
 2013年ハジレテペ大学博士後期課程修了。2017年トルコ初の災害看護学（学位取得）の教科書を出版し、主に災害時のシミュレーション教育とその評価に携わる。著書『Disaster Nursing in Turkey』。
 本セミナーは日本赤十字看護大学 2023年度外国人語へい事業-短期シフトローンシップID 523082の取組を受けています。
 主催 国際交流センター 国際交流推進課 国際交流室
 共催 国際交流センター 国際交流推進課 国際交流室



トルコの文化の紹介



2023年トルコ・シリア大地震の様子を報告



トルコのお茶とお菓子の紹介



学部生が日本の茶道でお返し

⑦ アンケート結果 (n=29)

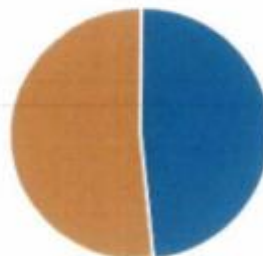
1. ご所属について、お答えください。

学部1年生	1
学部2年生	5
学部3年生	6
学部4年生	0
大学院生 (修士課程)	6
大学院生 (博士後期課程)	1
教員	7
職員	3



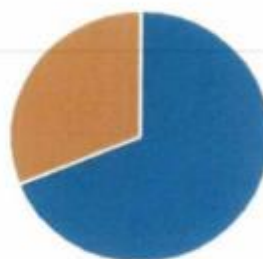
2. どのように知りましたか

● 日本赤十字看護大学からのメール	14
● 教員・知人の紹介	15



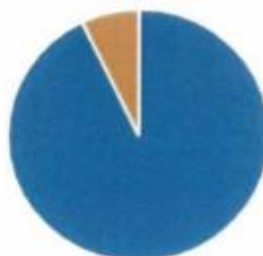
3. 参加方法を教えてください

● 対面	20
● Zoom	9



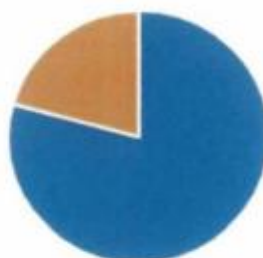
4. セミナーの内容について満足できましたか？

● とても満足できた	26
● 満足できた	2
● どちらともいえない	0
● あまり満足できなかった	0
● 満足できなかった	0



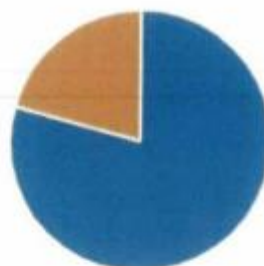
5. セミナーの内容は役立ちましたか？

● とても役立った	23
● 役立った	6
● どちらともいえない	0
● あまり役立たなかった	0
● 役立たなかった	0



6. セミナーの運営はいかがでしたか

● とてもよかった	23
● よかった	6
● どちらともいえない	0
● あまりよくなかった	0
● よくなかった	0



7. 今後のセミナー開催にあたり、希望するテーマがありましたら、お書きください。

- ・ WHO や各国の covid-19 への対応
- ・ 災害時の状況だけでなく看護の運営や国としての対応について知りたいです。
- ・ 世界各国の看護師、医療関係者の災害後の活動について。
- ・ 海外の看護研究
- ・ 海外の精神科や精神保健についてお話聞いてみたいです。 また、海外派遣や国際協力を考えている学生、経験のある先生方などとキャリアプランを話す場があると面白いなと思いました。
- ・ 海外での災害時に活用される日本の支援策
- ・ 具体的な避難所生活についてのお話を聞いてみたいです。

8. その他、ご意見・ご感想・お気づきの点がありましたら、お書きください。

- ・ 講演者の気持ちの伝わる温かいご報告でした。日赤に勤めるものとして勉強になりました。講演された先生、学校の先生方、ご関係者の皆様ありがとうございました。
- ・ Bilge 先生のお心遣いに胸が熱くなりました。トルコの災害看護の実際がわかり、いい機会になりました。ご企画、運営ありがとうございました。
- ・ とても有意義な時間を過ごすことが出来ました。トルコの地震についてはあまり知らずにいたので、これを機に調べてみたいと思いました。また、今回の講義を受け、この震災を受けて防災教育という点でどのような変化があったのか気になったので、それを明日の講義でお聞きしたいと思いました。
- ・ 講演終了間際にアンケート URL を案内すれば回答率が良くなる様に思います。
- ・ 大変、貴重な機会とお話、お茶とお菓子をありがとうございました。雰囲気など、とても温かい会でした。
- ・ ありがとうございました。 貴重なお話をお伺いすることができました。

その他、今回は日程等の都合でセンターとの共催はできなかったが、井村真澄教授によるノルウェー スタヴァンゲル大学の助産学研究者によるセミナーなど、活発な国際交流が行われている。



日本赤十字看護大学 大学院 国際保健助産学 国際セミナー

ノルウェーにおける看護と助産：未来に向けて Nursing and Midwifery in Norway: Towards the Future

日程 2024年2月26日（月）14:30～15:30

場所 広尾キャンパス 204 教室（対面）

言語 英語

ノルウェーのスタヴァンゲル大学から助産学の研究者が
日本赤十字看護大学に1週間の予定で来日します。

講演1. これからの看護・助産におけるリーダーシップの課題：
レジリエンスへの支援
Future Leadership Challenges in Nursing and Midwifery:
Support for Resilience



Professor Kristin Akerjordet, Ph.D.
Department of Quality and Health Technology
The Faculty of Health Sciences
University of Stavanger, Norway

講義2. ノルウェーのリプロダクティブ&マタニティ・ヘルスケアと
助産：今後の課題
Norwegian Context of Reproductive and Maternal Healthcare and
Midwifery- Future Challenges



Associate Professor Eva Christina Furskog-Risa, Ph.D.
Department of Caring and Ethics
The Faculty of Health Sciences
University of Stavanger, Norway

本招聘は、Scandinavia-Japan Sasakawa Foundationの助成を受けています。

申込み

資料・会場準備の都合により事前申込をお願いします。
<https://forms.office.com/r/t6gr559uKY>

ノルウェースタヴァンゲル大学 助産学研
究者によるミニレクチャー ノルウェーにおけ
る看護と助産：未来に向けて



F. その他 国際交流活動及び国際事業・協力活動

1. TOEFL-ITP

2023年度は、TOEFL-ITPを2回広尾キャンパスにて実施した。交換留学等を希望している学部生、英語に興味を持っている学部生、大宮キャンパスの学生、大学院生、教職員などを対象とした。大学院1年生全員は研究科教務委員会より受験料が支払われた。

第1回 5月27日(土) 10時より実施

受験者合計85名(学部25名、さいたま看護学部3名、修士54名、博士3名)

第2回 2月24日(土) 10時より実施

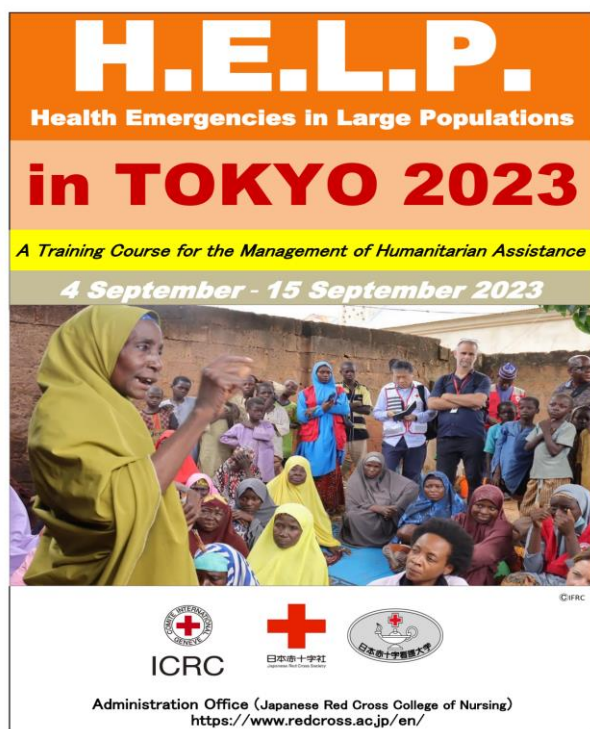
受験者合計37名(学部13名、さいたま看護学部3名、修士14名、博士4名、外部3名)

2024年度も2度実施予定となっている。

2. H. E. L. P. in Tokyo 2023

2023年9月4日(月)から9月15日(金)、土曜、日曜を除く10日間でH.E.L.P. (Health Emergencies in Large Populations) コースを実施した。同コースには、12か国から20名の参加があった。

コースの実施にあたっては、国連機関、国際赤十字から多数の講師を得て、大規模災害時の保健衛生に関する講義、ケーススタディなど多彩なプログラムを展開した。



ポスター



修了書

H.E.L.P. in Tokyo 2023 Program

*As of Aug.31 Program content is subject to change.

	Day 1 Mon /Sep.4	Day 2 Tue / Sep.5	Day 3 Wed / Sep.6	Day 4 Thu / Sep.7	Day 5 Fri / Sep.8
0900	Registration Opening ceremony	Review & Reflection ICRC and JRCCN	Review & Reflection ICRC and JRCCN	Review & Reflection ICRC and JRCCN	Review & Reflection ICRC and JRCCN
0910	H.E.L.P. Overview Setting the Scene 1 Ms. Catherine Marie MARTIN ICRC	Public Health Engineering 1 Mr. Alexander HUMBERT ICRC	Public Health Engineering 3 Mr. Alexander HUMBERT ICRC	Nutrition & Livelihood 1 Dr. Mija-Tesse VERVERS Johns Hopkins Univ.	Nutrition & Livelihood 5 Dr. Mija-Tesse VERVERS Johns Hopkins Univ.
1040	Coffee break	Coffee break	Coffee break	Coffee break	Coffee break
1055	Setting the Scene 2 Ms. Catherine Marie MARTIN ICRC	Public Health Engineering 2 Mr. Alexander HUMBERT ICRC	Public Health Engineering 4 Mr. Alexander HUMBERT ICRC	Nutrition & Livelihood 2 Dr. Mija-Tesse VERVERS Johns Hopkins Univ.	Nutrition & Livelihood 6 Dr. Mija-Tesse VERVERS Johns Hopkins Univ.
1225	Lunch break	Lunch break	Lunch break	Lunch break	Lunch break
1330	Program Cycle Management Ms. Catherine Marie MARTIN ICRC	Health Care Dr. Osamu KUNII GHIT Fund	Public Health Engineering 5 Mr. Alexander HUMBERT ICRC	Nutrition & Livelihood 3 Dr. Mija-Tesse VERVERS Johns Hopkins Univ.	Non-Communicable Diseases Dr. Masamichi YOKOE JRCS
1500	Coffee break	Coffee break	Coffee break	Coffee break	Coffee break
1515	Humanitarian Ethics Ms. Catherine Marie MARTIN ICRC	Health Care Dr. Osamu KUNII GHIT Fund	Staff Security Mr. Yukiya SAITO JRCS	Nutrition & Livelihood 4 Dr. Mija-Tesse VERVERS Johns Hopkins Univ.	Non-Communicable Diseases Dr. Masamichi YOKOE JRCS
1645			Coffee break	World Café	
1700			Mental Health & Psychosocial Support Mr. Prednison MORALES IFRC AP MHPSS Collaborative		
1830					

JRCCN: Japanese Red Cross College of Nursing
 ICRC: International Committee of the Red Cross
 JRCS: Japanese Red Cross Society
 UNFPA: United Nations Population Fund

H.E.L.P. in Tokyo 2023 Program

*Rvsd Sep.11. Program content is subject to change.

	Day 6 Mon /Sep.11	Day 7 Tue / Sep.12	Day 8 Wed / Sep.13	Day 9 Thu / Sep.14	Day 10 Fri / Sep.15
0900	Review & Reflection ICRC and JRCCN	Review & Reflection ICRC and JRCCN	Review & Reflection ICRC and JRCCN	Review & Reflection ICRC and JRCCN	Review & Reflection ICRC and JRCCN
0910	Communicable Diseases 1 Dr. Yasuhiko KAMIYA Nagasaki Univ.	Data Collection, Analysis & Sharing Dr. Nobuyuki NISHIKIORI	Sexual and Reproductive Health Dr. Eiko NARITA UNFPA	Protection Dr. Masaaki OHASHI	Summary Exercises ICRC & JRCCN
1040	Coffee break	Coffee break	Coffee break	Coffee break	Coffee break
1055	Communicable Diseases 2 Dr. Yasuhiko KAMIYA Nagasaki Univ.	Epidemiology Concepts for Use the Field Dr. Nobuyuki NISHIKIORI	Gender Based Violence Dr. Eiko NARITA UNFPA	Protection Dr. Masaaki OHASHI	Summary Exercises ICRC & JRCCN
1225	Lunch break	Lunch break	Lunch break	Lunch break	Lunch break
1330	Communicable Diseases 3 Dr. Yasuhiko KAMIYA Nagasaki Univ.	Epidemiology Surveillance and Early Warning System Dr. Nobuyuki NISHIKIORI	Health Care Services in Humanitarian Crisis 1 Dr. Masaharu NAKADE Osaka Red Cross Hosp.	International Humanitarian Law Ms. Katherine STEWART ICRC	Summary Exercises ICRC & JRCCN
1500	Coffee break	Coffee break	Coffee break	Coffee break	Coffee break
1515	Communicable Diseases 4 Dr. Yasuhiko KAMIYA Nagasaki Univ.	Mass Casualty Management Dr. Srihari CATTAMANCHI ICRC	Health Care Services in Humanitarian Crisis 2 Dr. Masaharu NAKADE Osaka Red Cross Hosp.	Communication with the Media & Social Media Ms. Rebeca Lucia GALINDO ICRC	Course Evaluation Closing Ceremony
1645	Coffee break	Coffee break	Coffee break	Coffee break	
1700	Communicable Diseases 5 Dr. Yasuhiko KAMIYA Nagasaki Univ.	Violence Against Healthcare Ms. Catherine Marie MARTIN ICRC	Protection Ms. Anais KAMFFER ICRC	Summary Exercises ICRC & JRCCN	
1830					

JRCCN: Japanese Red Cross College of Nursing
 ICRC: International Committee of the Red Cross
 JRCS: Japanese Red Cross Society
 UNFPA: United Nations Population Fund

Online

2023年度 国際交流センター運営委員会 役員分担と年間スケジュール

	2023年度											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
国際交流センター運営委員会												
スウェーデン 赤十字大学派遣	4/6(木) ガイダンス説明会 (対面・オンライン)	20日	22日	20日		21日		17日	21日	18日		14日
スウェーデン 赤十字大学受入	学生	募集要項配布・申請				選考	10/22-11/3受入れ(3名) 10/30-11/15受入れ(3名) 来校(講演会あり)			オリエンテーション (オンライン)	2/19~3/22派遣(3名)	次年度学生 帰国報告書
ラ・ソレス大学派遣	4/6(木) ガイダンス説明会 (対面・オンライン)	学生	募集要項配布・申請			選考					2/26-3/15派遣(3名)	次年度学生 帰国報告書
ラ・ソレス大学受入	学生						10/16-11/3受入れ(3名)					
ワシントン大学英語研修	4/6(木) ガイダンス説明会 (対面・オンライン)	学生					8/18-9/11 語学留学					
大学院生海外研修				7/26 クロアチア Medical High School Varazdin 校長他来校								
他国との交流												
スウェーデン赤十字大学との共同研究												
国際会議・国際シンポジウム	4/17(月) ジュリー・ワトソン 講演会 (対面・オンライン)											
海外学芸会系・研修・語学カの推進 (10EFL-1IPファスト 第1回(レベル1))		5/27(土) TOEFL-1IPファスト 第1回(レベル1)										
MOU	4/17(月) ジュリー・ワトソン 講演会 (対面・オンライン)	5/30 グランド・バ レー州立大学 MOU締結(メール)	6/12 スリサハリ ン国立大学 MOU締結(メール)	7/21 聖アンソ ニー看護大学 MOU締結(メ ール)	8/31 スリサハ リン国立大学 MOU締結(メ ール)	9/14-9/15 H.E.L.P. 開催(対面)	10/30 Dr. Jenny Gadstedt&Dr. Helene Eriksson (Nursing Education in Sweden)	11/30 IFRC Global 日本語講座 (対面&オンライン)			2/14(水) エル ケトリンの紹介 (対面) 2023年トルコ・シ リア地震と被害	
学生部会												
年報/活動報告書												
H.E.L.P. in Tokyo												
自己点検用資料/生長期計画/ ホームページなど												
予算							2024年度予算作成 予算案の委員会 報告		2024年度予算 予算案提出			
姉妹赤十字社訪問申請				3/27-9/6 インドネシア 赤十字(バリ州& チンバワール 市)	8/19-26 スウェーデン赤十字 (両日・学生)	9/12 カンボジア赤十字 (両日)	10/2-4 ケニア赤十字 (両日)	10/21(土) クロアチア・ルーマニア 交換留学生歓迎交流会・茶会体験		1/25-24 キリバス赤十字 (両日)		3/4-8 ルーマニア 赤十字(両日) フィリピン赤十字 (両日) ア・バリン州(機 内) 方・学生)

2023 年度 日本赤十字看護大学 国際交流センター活動報告書

作成年月 2024 年 6 月
発行・編集 日本赤十字看護大学 国際交流センター
〒150-0012 東京都渋谷区広尾 4-1-3
日本赤十字看護大学
電話 : 03-3409-0875
FAX : 03-3409-0589
Email:kokusai@redcross.ac.jp
